

1 事業名

令和元年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
「テンパークチャレンじくらぶ ～ドキドキ わくわく・冬～」

2 趣 旨（事業の目的）

自然体験を通して、自然を大切に作る心、豊かな感性や思いやりの心を育むとともに、ボランティアの高校生・大学生また参加者同士の交流をとおして、コミュニケーションの力を育む。

3 期 日 令和2年1月11日（土）～12日（日）

4 参加者 73名（盛岡市、滝沢市、八幡平市、久慈市、花巻市、奥州市、北上市、雫石町、金ケ崎町の小学3～6年生）

5 後 援 岩手県教育委員会

6 内 容

（1）日程

日時	13:00		13:30		14:00		15:00		17:00		17:30		18:30		19:30		20:00		21:00		21:30		
1月11日 （土）			小学生 受付		は じ め の 会		ドキドキわくわく 友達作り		ドキドキわくわく 創作活動 ～ワックスボール作り～		移 動		夕 食		入 浴		移 動		ドキドキわくわく 防災活動 ～防災かるた大会～		就 寝 準 備		就 寝
日時	6:30		7:00		7:15		8:45		9:00		9:30		12:00		12:30		13:30		14:00		14:30		
1月12日 （日）	起 床		洗 面 ・ 準 備		つ ど い		朝 食		退 所 点 検		移 動		ドキドキわくわく 雪遊び ～雪上運動会 &そりすべり～		移 動		昼 食		ア ン ケ ー ト 記 入		お わ り の 会		参 加 者 解 散

（2）指導者

国立岩手山青少年交流の家

企画指導専門職

工 藤 祐 幸

企画指導専門職

松 本 博 路

事業推進係

日比野 功 宜

小笠原 洋 介

指導補助

法人ボランティア

15名

（3）企画のポイント

参加した小学生が、安全に楽しく2日間を過ごすことができるように、体験活動支援セミナーに参加している高校生や大学生を、グループリーダーとして配置した。そして、小学生が高校生や大学生とのふれあいや体験活動を通して、友達作りや班で協力することの大切さを学ぶことができる機会とした。

企画立案に際しては、法人ボランティア向けの事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プ

プロジェクト」において企画会議、事前準備を行い、活動全体を通してコミュニケーションが深まるようなプログラム構成を心掛けた。そして、それぞれの活動において、参加者同士や高校生、大学生とのコミュニケーションを図ることができるように配慮した。日程については、冬季の実施ということも含め、天候や気温等によるプログラム変更に対応できるように、また小学生と高校生、大学生が十分に関わることができるようにゆとりをもって設定をした。

(4) 広報のポイント

年度当初に年間の事業一覧を岩手県内全児童に配付するとともに、当施設ホームページに事業日程を掲載してきた。また、盛岡市、滝沢市、八幡平市、雫石町の各小学校と報道機関へは、開催要項とチラシ、ポスターを送付した。

(5) 運営のポイント

参加した子供たちが楽しく安全に過ごすことができるように、子供たち7～8人の10班にセミナー参加者を2～3名ずつグループリーダーとして配置するとともに、統括リーダーがフォローできる体制を敷くことで、子供との関わり方等について相談したりアドバイスしたりできるようにし、班のコミュニケーションを深め、より楽しく活動できるようにした。

また、全体での共通理解を図りながら運営に関わることができるように、階層型組織キャンプを構成し、本部ミーティング、スタッフミーティング、スライドショー撮影ミーティング、生活班ミーティングなど役割を明確にした組織運営体制を敷き、安全に留意したプログラム展開を実践した。(補足資料参照)

8 成果とその普及

参加した子供たちの中には、始めは不安や緊張を感じていたところもあったが、各グループのリーダーや仲間と関わる中で打ち解け、仲良く活動を楽しむ姿が見られた。子供たちがグループリーダーに親しみをもって関わっていくことで、グループリーダーたちも次第に自信をもって、子供たちと関わるようになっていくなどの相乗効果も見られた。参加者のアンケートからは「今まで参加してきて、どれも楽しかったですが、今年が今までで一番楽しく思い出に残って、とってもいいテンパークでした。中学生になって、参加できなくなる年がありますが、高校生になったらまたやりたいです。」「夏と冬では同じところでも季節が違っていると感じ方も違うからもっとこれからも参加して、直接体験をしたいです。」「今までの参加では、3、4年生だったので、高学年の人にやさしくしてもらっていました。でも、今回はグループ内でも大きくて、小さい子供たちのことを考えることができました。そういう経験はあまりないと思うのでよかったです。」など、高校生や大学生と活動したことで将来また高校生になった際には参加したいといったものや、自然の厳しさや偉大さについて直接体験を通して感じることもできた、異年齢との関わりの中で自分の役割を見出すことができたというような肯定的な感想が多く寄せられた。活動中の様子からも、子供たちに「生きる力」として必要とされているコミュニケーション能力の向上につなげることができた。1泊2日という短い期間ではあるが、子供たちが十分に満足できる活動を提供できたものとする。

上記の成果が上げられたのは、企画のポイントにも掲げた、日程にゆとりを持ったことも大きな要因として考えられる。一つ一つの活動に余裕をもって取り組むことで、満足度の高い体験が可能となり、短い期間の中でもより充実したものが提供できたのではないかと。

